

千年の森便り No.267

2027.4.29

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

4月19日（日）天候 晴れ

2026年度の最初の活動日、吊り橋を渡ると新緑の中にマルバアオダモやコバノガマズミの白い花が華やかに咲いていました。月に一度の活動の中では、新緑の森を楽しめるのは4月だけです。美しい新緑に包まれた豊英島で2026年度の定時総会と植物観察、竹林の整備などを行いました。

参加者は、秋元、伊藤、片野、苅米、清水、竹下、福島の会員7名でした。苅米さんから、段ボール箱いっぱいの大粒で甘くておいしいキンカンをいただきました。ごちそうさまでした。

次回、5月17日（日）の活動日は、公開行事として清和県民の森ハイキングを行う予定です。ハイキングの案内、受付などのスタッフが必要となりますので、会員の皆様のご参加をよろしくお願ひします。（福島）



〇定時総会

ちば千年の森をつくる会の規約に基づき年度初めの定時総会を開催しました。議案は、2025年度の活動報告、会計報告及び会計監査報告、2026年度の活動計画案、予算計画案、役員改選についての5議案です。会員数が減少している中、2026年度も新たな方向性を見出す活動に積極的に取り組んでいくことで活動案が承認されました。役員改選については、全員が再任ということで承認され、すべての議案が承認されて定時総会を終えることができました。ご協力ありがとうございました（福島）



〇お久しぶりです豊英島

昨年5月の清和県民の森ハイキング以来の活動参加です。淡い新緑におおわれた豊英島に至る吊り橋を渡りきるとマルバアオダモやコバノガマズミの白い花々が出迎えてくれました。今日は年に一度の定時総会ということでせめて今日ぐらいは出ておかないとね・・・（笑）

総会の方は無事におわり、総会後には全員で島内の散策を楽しみました。今年もユウシュンランが咲いているかな？と皆さんソワソワしているので、まずは全員でユウシュンラン探しに出かけてみました。昨年10株ほど見つかったのに、とうとう今年は見つけれませんでした。残念！



吊り橋を渡って島へ



抱卵中のトビ



トビの卵（2個）



フデリンドウ

その後、ホテイ岬方面に散策しようとして歩いていたらトビの巣に何やら動くものが……。抱卵中のトビでした。今年は営巣していないと皆が思っていたのに抱卵していたので嬉しかったです。ちょっと近づきすぎて親鳥を驚かせてしまい大いに反省しています。急いで巣の近くから離れました。巣の中には卵が2つありました。無事にふ化してくれることを願うばかりです。

その後は各自自由に散策。島内をあてもなく彷徨するのも楽しいものです。(枯死木への注意は必要ですが…) 点々と咲いているシエビネの白い花にほおが緩み、足元にフデリンドウが咲いているのを目にして感動をおぼえました。一昨年から野鳥の会に入会してからは、定例探鳥会が千年の森の活動日と重なってしまいご無沙汰続きとなってしまいましたが、これからもできる範囲で活動に参加したいと思っています。(清水)

○春の花と新葉とトビの抱卵

前回花の見られなかったヒメフタバランの状態確認に禁断の岬に向かいました。ヒメフタバランは小さな株を含めて10株ほどありました。大きめの2株のうちの1株に花序があり、花柄は落ちて花軸と苞が残った状態でした。開花が例年よりだいぶ遅かったようです。花の痕跡があり来年に希望を抱かせる1株があることに感謝です。春、真っ只中の島を彩る花たちはエビネ、イタヤカエデ、ウリカエデ、コバノガマズミ、オオバウマノスズクサ、ツガ、鮮やかな黄色のヤマブキとミツバツチグリです。ニガイチゴはほとんどが実となっていて、株ごとに一輪ほどの花が残っていました。マルバアオダモは今が盛りと島のあちらこちらで白い花を見ることができました。新葉も様々で、ホオノキ、ヤマハゼ?、アブラギリ、シロダモ等の変化にとんだ葉を楽しむことができました。テイカカズラは春に紅葉するようです。艶やかな真っ赤な葉に目が釘付けになります。紅葉の記事を見つけましたので転載します。『その葉には1~2年の寿命があり、新芽が出てくると、入れ替わりで赤く紅葉して散るのだという。新芽が赤いのかと思ったが、寿命を迎えた葉が散る前に紅葉しているということである。』とのこと。鮮やかな赤い葉と集散花序の蕾も確認できとてもよかったです。開花はもう間もなくの様です。白いプロペラのような花を楽しみにしています。



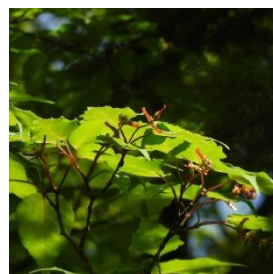
ヒメフタバラン



エビネ



イタヤカエデ



ウリカエデ



コバノガマズミ



オオバウマノスズクサ



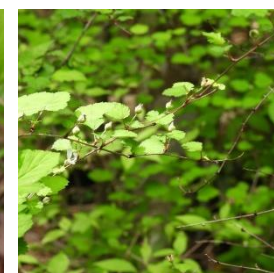
ツガ



ヤマブキ



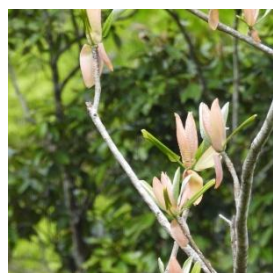
ミツバツチグリ



ニガイチゴ



マルバアオダモ



ホオノキ



ヤマハゼ?



アブラギリ



シロダモ



テイカズラ



抱卵中のトビ



巣の中に 2 個の卵



コショウノキの実



カメラのデータ回収

トビの抱卵を久しぶりに見ることができました。巣の中で身動きもせず、鋭い眼光でカメラを見ているトビに優しさのようなものを感じました。しばらくして、他の会員がトビを観察しているときに突然飛び去ってしまったようです。近づき過ぎたのでしょうか。その巣には 2 個の卵が在りました。この後の活動は、トビの抱卵を邪魔しないように巣を遠巻きにした活動となりました。孵化は抱卵後 30 日ほどだそうです。次回の活動日にはひな鳥が確認できるかもしれません。ひな鳥を見たいと思いますが子育ての邪魔とならないよう注意することが肝要です。(秋元)

○竹林整備および里山の安全確保活動

本日の活動では、森の植物調査を行いながら、竹林周辺の整備と安全確認を実施しました。竹林では倒れたり枯れたりした竹があり、歩行時に危険を感じる場所もあります。そのような状況の中、苅米さんが鉋（ナタ）を使い、倒れた真竹や枯れ竹の整備に取り組みました。鉋で真竹を切断する技を実際に見るのは初めてで、その確かな技術と経験に基づく作業は非常に印象的でした。また、伊藤さんも竹切り用ののこぎりを携帯し、鉋と使い分けながら、一つひとつ丁寧に竹を伐っていました。

ナラ枯れ木の処理のように大きな危険を取り除く作業はもちろん重要ですが、今回のように、倒れた竹を片付けるといった小さな危険を減らしていく地道な作業の積み重ねが、里山全体の安全性を高めていくことを強く実感しました。特に心に残ったのは、こうした作業がご自身のためではなく、次にこの森を訪れる方々の安全を思って行われているという点です。その姿勢と気持ちに触れ、とても素敵だと感じました。実際に整備作業をされている方々を間近で見られたことは、大変貴重で、学びの多い経験となりました。

しかし近年、このような里山の整備を担う方々が減少しており、その結果、里山が荒れてきている現状も改めて感じられます。これからも、自然調査とあわせて安全を守るための整備活動を続けていくことの大切さを共有し、次世代へと里山をつないでいきたいと思えます。(片野)



鉋で竹を処理する苅米さん



鉋で伐った竹

お知らせ

○次回の定例活動は 5 月 17 日（日）です。

公開行事として、清和県民の森と豊英島のハイキングを行います。

スタッフが必要になりますので会員の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

参加予定の方は、地元食材のお弁当（800 円）の希望の有無を合わせてお知らせください。

島に入る際は、ヤマビル、ダニ対策、安全のためヘルメットの着用をお願いします。

集合は、県民の森管理事務所下の駐車場に 9:20 です（参加者の集合時間は 9:30）。

2026 年度活動日程（ちば千年の森をつくる会）

活動日	主な活動	摘 要
4月19日（日）	定時総会、個別活動（自由活動）	
5月17日（日）	清和県民の森ハイキング	公開行事
6月21日（日）	シカ調査、環境整備（水辺）、（危険木伐採） 駐車場・電柵付近の草刈り、刈り払い機操作体験	
7月20日（月祝）	夏のきのご観察会（外部講師）	公開行事
8月16日（日）	相対照度調査、ヒメコマツ下刈り、植生保護柵設置補修、 （危険木伐採）	
9月20日（日）	シカ調査、環境整備（観察路、広場）、（危険木伐採） 駐車場・電柵付近の草刈り、刈り払い機操作体験	
<u>10月12日（月祝）</u>	秋のきのご観察会（外部講師）	公開行事
11月15日（日）	ホテイ岬地区整備、植生保護柵設置補修 チェーンソー操作体験、（危険木伐採）	
12月6日（日）	シカ調査、紅葉散策、 駐車場・電柵付近の草刈り コナラ伐採地刈り払い、ロープワーク研修、（危険木伐採）	紅葉時期
1月17日（日）	植生保護柵設置補修、ヒメコマツ測定補助、（危険木伐採）	
2月21日（日）	相対照度調査、植生保護柵設置補修、（危険木伐採）	
3月22日（日）	シカ調査、（ヒメコマツ測定補助） 植生保護柵設置補修、（危険木伐採）	

原則として第3日曜日

7月20日（月祝）、10月12日（月祝）：きのご観察会で吹春講師、中島講師依頼

12月6日（日）：紅葉に合わせて第1日曜日

植物・野鳥・昆虫・きのご調査等は、適宜実施する。

新たな活動として、コナラ伐採地を使った「生物多様性を保全するための森づくり研修会」を企画する